連載

あのマチ このムラ・地域おこし活躍中

No69

奈井江町の事例

―健康と福祉のまち　奈井江町―

石狩平野の北部、空知総合振興局管内の中央に位置する奈井江町の農業にかかるマチおこしを紹介する。

1．JA新すながわ「ゆめぴりか」生産協議会に代表される奈井江町の米作り

今や、中空知の奈井江町は上川や北空知をしのぐ、道内屈指の米どころと評価されている。

第四九回（平成二三年度）北海道優良米生産出荷共励会
・個人の部　第2部　うるち米（六ha以上一二ha未満）
最優秀賞　千徳信行さん
第五〇回（平成二四年度）北海道優良米生産出荷共励会
・個人の部　第2部　うるち米（六ha以上一二ha未満）
優秀賞　山口光一さん
・生産グループの部　最優秀賞
JA新すながわ「ゆめぴりか」生産協議会
（奈井江町・砂川市）

共励会での度重なる優秀賞受賞

『千徳氏の米づくりでは、「奈井江町の高品質な米生産」を目的とする徹底した基本技術の励行をみることができる。

また、減農薬に積極的に取り組むことで、地域のクリーン農業に対するモチベーションの維持に貢献しており、その牽引役となっている。さらにTIAの一員として試験展示ほを設置し、

仲間とともに技術研鑽に励んでおり、このことが地域全体の米作り技術の底上げにも大きく貢献している。

…奈井江町の典型的な粘土質土壌にあり、透排性不良によるほ場作業の制約を受けざるを得ない条件下において、さらに平成二一年の冷害、平成二二年の異常高温のような気象変動の中で、このように安定した実績を残したことは称賛に値する。…』（以上、第四九回北海道優良米出荷共励会最優秀賞受賞者現地調査報告より）と、最大級の賛辞を受けている。

また、食べ比べ審査で美味しさを競う米－1グランプリINらんこしの第一回大会（平成二三年一〇月）において、千徳さんは準グランプリに輝いた。

JA新すながわ「ゆめぴりか」生産協議会

平成二一年から販売が始まった、ブランド米「ゆめぴりか」。全国でも、高い評価を得ており、JA新すながわで「ゆめぴりか」の生産に取り組むのは、ほとんどが奈井江町の農家とのこと。「ゆめぴりか」は良食味米としての品質を維持するために、タンパクの含有量を、出荷基準以下にしなければならない。そうすると、当然、「出荷できる米」と「出荷できない米」が出てくる。奈井江町と砂川市にまたがるJA新すながわは、「出荷できる米」の割合が、全道で実質的にトップで、しかも、それが出荷開始の平成二一年から三年続け

基準品の出荷比率

平成21年	全道…10.7％	新すながわ…45.2％
平成22年	全道…4.2％	新すながわ…26.4％
平成23年	全道…27.2％	新すながわ…67.6％

（奈井江町　まちの話題web版）

平成24年	全道…25.4％	新すながわ…35.2％

JA新すながわ「ゆめぴりか」生産協議会の生産技術等にかかる主な活動

2月　講習会（中央農業試験場、空知農業改良普及センター中空知支所、ホクレン岩見沢支所米穀課）
　　施肥面談
6月～7月　栽培講習会（空知農業改良普及センター中空知支所）
　　産地訪問視察
8月　圃場視察
　　現地研修・全体会議

JA新すながわ「ゆめぴりか」憲章に掲げる米作りへの姿勢（項目の抜粋）

…
3.「高品質・良食味」の維持、向上のための栽培基準10カ条
4.「高品質・良食味」の維持、向上のための収穫・出荷基準6カ条
5.「高品質・良食味」の維持、向上のための品質基準5カ条
…

てのことなのである。

この実績はＪＡ新すながわ「ゆめぴりか生産協議会」に代表される奈井江町の水稲農家の米作りへの情熱の成果なのである。

『奈井江の生産者はみんな職人気質。いい米、うまい米を作りたいという思いをみんな強く持っているんだよ。』

『ゆめぴりかの前から、特栽、低たんぱくの取組を続けてきた。だから、ゆめぴりかで他の産地がコケても、うちらはできるんだ。』

『今の若い連中はすごいよ。科学的根拠をちゃんと理解して、実践している。』

（以上、ＪＡ新すながわ「ゆめぴりか」生産協議会初代会長山口光一さん、広報ないえ二〇一一・七）

雪米の蔵～ゆめのくら～

良質味米作りのために

別表の「ＪＡ新すながわ「ゆめぴりか」生産協議会の生産技術等にかかる主な活動」に見られるように六月の試験ほでの栽培講習会の他、二月に空知農業改良普及センター中空知支所の解説のもと、座学で前年度の稲作の分析、当年度の対策、留意点など詳細な講習会が開催されている。

また、これら生産者の米作りを支えているのは、奈井江町のケイ酸資材及びいもち病対策の補助であることも見逃せない点である。

奈井江町には米穀乾燥調製貯蔵施設、ＪＡ新すながわライスターミナル「中心蔵」が平成一二年に、米穀貯蔵用利雪低温倉庫「雪米の蔵～ゆめのくら～」が平成二一年に完成し、米の調整、貯蔵をする施設が整備されている。

すべてはおいしい米作りのために。

２．メロン生産組合の活動と小学生の応援

組合の設立

奈井江町の誇るブランドである北海キングメロンは、主要作物の米の減反対策として、高収益作物の導入を図るべく、昭和五六年に六戸からメロン生産組合を発足し、奈井江町の稲作に次ぐ作物として生産されてきた。ＪＡが合併し、砂川市の集約的作物であるミニトマト等に単収的な有利性から取って代わられつつあり、最盛期に比べ、奈井

江町では作付け面積等が半減している状況にある。しかし、産地・夕張に味で真っ向勝負との発足当初の気概は後継者たる2代目にも脈々と受け継がれている。

栽　培

奈井江町でのメロンの栽培は〝夕張メロンの父〟といわれる笠松美紀男さん（元農業改良普及員）を招いて、赤肉メロンの採用やほ場の改良など、技術を高める努力を重ねてきた。さらに、消費者が求める安全安心に応えようと、北海道の低農薬・低化学肥料の農産品に認められる「ＹＥＳ！クリーン」を獲得。病気に負けない苗を育てるために、ほとんどの生産者が接ぎ木で栽培している。

組合活動を通じて技術、モチベーションを高める

メロンの生産者は、先輩と若手の間、同世代の仲間の間で切磋琢磨し、技術とモチベーションを高めあっている。（別表組合の活動参照）

ないえメロン生産組合　平成24年度活動報告及び平成25年度事業計画

重点目標
◎土づくり及び生産、販売技術の向上
※堆肥の投入、土壌還元消毒の推進等
※生産技術指導
※共励会の実施
※個人面談の実施
◎販売戦略の確立と安定出荷による有利販売
※販路の充実と宣伝活動の強化
※検定委員会の負担軽減と格付けの均一化
※選果場の効率的運営
※10ａ当たり粗収入120万円以上

『経営を考えると、高く売れて欲しいという思いはある。だけど、自分のメロンを食べた人から「美味しかった」と言ってもらえるのが嬉しいよ。手間がかかる作物だけど、やめるつもりはない。これからもやっていくよ。』（ないえメロン生産組合杉本副会長―広報ないえ二〇一二・八）

『メロンは、天候に左右されやすい作物なんだよ。大雪でハウスがつぶされたこともあったし、台風に飛ばされたこともあった。病気が流行ったこともあったしね。』『若手ががんばっているよ。糠消毒を積極的にやったりね。彼らは、技術を高めようという意識が高いんだ。』（ないえメロン生産組合鈴木会長―広報ないえ二〇一二・八）

奈井江小三年生　地域を知る学習

（町内の奈井江小学校と江南小学校は平成二四年度をもって廃校となり、新しい奈井江小学校に統合された。）

平成二四年、奈井江小学校は、町の特産品メロンを題材に「地域を知る学習」をＪＡ等に依頼し、三年生（二七名）がないえメロン生産組合堀副会長から学校で授業を受け、暑いハウスの中を見学させてもらった後、メロンの種類、作り方、生産量、出荷先、農家戸数、加工などについて様々な質問を堀さんにぶつけた。

ＰＲチラシ作り

学習後、子供たちは自発的にメロンをＰＲするチラシを作り始めた。色鉛筆のカラフルな色づかいとともに、「今がしゅん

ですよ！　甘くておいしい！」と、アピールたっぷりの言葉が躍るチラシが出来上がった。

チラシを出荷箱へ

後日、子供たちは選果場を訪れ、出荷されていく箱にＰＲチラシを入れていった。「お客さんが自分たちのチラシを見て、買ってくれるといいな！」と期待に胸を膨らませていた。子供たちは、翌週には「道の駅」ハウスヤルビ奈井江で観光客へチラシを手渡すＰＲ活動も行った。

札幌のスーパーから感謝状が届いた

『奈井江産「北海キング」メロンを販売したところ、箱の中に〇〇さんのすてきなポスターが入っていました。早速店頭に貼りました。お客様には大変好評です。（すごく上手ですねー）北海キングメロンはお蔭様で果肉も甘く、お買い上げ頂いたお客様には大変好評です。全国送りもたくさんありました。以上、お礼と報告をかねて写真も同封して送ります。また来年も宜しくね』（以上、札幌マルコストアー東苗穂店青果担当者さんからＰＲチラシをつくった子への手紙）

奈井江町に、メロン生産農家に心強い味方、メロン販売大使たちが誕生した。

取材後記

米についても、メロンについても、生産者の方々が互いに切磋琢磨し、消費者に美味しい商品を提供したいという情熱と、生産物に対する深い愛情を持っているという点が共通している。そして小学生の地域を知る学習での活動などに見られるように、農業を取り巻く町民の理解が深く、応援が素晴らしいマチであると感じた。

一般社団法人　北海道地域農業研究所
特別研究員　西野　義隆